

Journal of Physiology and Medicine Education 構想

～ <http://jpme.jp> に試行中なので是非ご覧下さい～

慶應義塾大学医学部生理学教室／生理学会若手の会 小泉 周

昭和大学医学部5年 小森 学

昭和大学医学部第2生理／生理学教育法シェアリンググループ 渋谷まさと

Instructional Design and Technology Unit, UCLA School of Medicine Sebastian Uijtdehaage

はじめに

医学・生理学の教員の多くは、情報を整理、明示するため、科学的に新たな切り口で、優れた、すなわち刷新的な、まとめ、表、図などの教材を自ら製作し、自身の教育の現場にて使用しているのではないだろうか？その刷新さにより、医学・生理学教育の効率が増大し、その学校内の少人数の学生は恩恵を受けていると思われる。しからば、その刷新的教材を学校を超えてシェアリングするプラットフォームが求められるのではないだろうか？

そのプラットフォームに求められる機能は、公募・審査・公表であると思われる [1]。

あるテーマに関する教材に刷新さを付加し得る人物は、そのテーマを専門とする教員、研究者のみであるわけではないだろう。当然、専門家からの、教材の正確さ、updateさなどに関する意見も貴重である。しかし、そのテーマを初めて勉強する学生、そのテーマを専門としない教員、研究者が刷新的なまとめ、図表などを製作する可能性は否定できないどころか、大いに奨励されるべきではないだろうか？どのような教材も多くの場合は、そのテーマを専門としていない入門者のために製作される。素人的な視点からそのテーマの情報を整理する必要性が大いにあるわけである。そのため、刷新さをシェアリングするプラットフォームは、分担方式ではなく、公募方式を採用する必要があると思われる。

また、応募された教材に実際に刷新さがあるかないかを審査する機能も必要であろう。これは、単に刷新さのある教材だけがプラットフォームから公表される必要性のためではなく、製作者が刷新さを主張するためにも必要と思われる。製作者自身が刷新さがあると思いきんで公表するのではなく、より客観的にpeer-reviewされ、acceptされた方が、実際に刷新的である可能性は高いであろう。審査されるべき点は、刷新さだけでなく、わかりやすさも重要と思われる。審査員には教員、研究員だけではなく、学生も加わることはいかがであろうか？これにより素人的視点から情報が整理されているか否かも審査され、「教授錯覚」に陥った教員の独りよがりな教材はrejectされるのである。

さらに、審査を通った教材は、他の教員や学生も使用できるよう、(製作者の権利を保護した上で)公表される必要がある。

以上の公募・審査・公表機能を持ち合わせたプラットフォームの形態は、やはりJournalなのではないだろうか？研究論文のためのJournalに公募・審査・公表機能があることは周知の通りであるため、公募・審査・公表などと説明しなくてもJournalの一言で片づけられる。また、Journalであれば、そこにおける発表は(狭い意味を含めて)「業績」であり、個人の業績集で主張できるのである。これらにより、刷新的教材の開発、quality control, シェアリングが促進されることが期

待される。

われわれは、上記の理念に基づき、Journal of Physiology and Medicine Education (JPME) 構想を提唱する [2]。創刊準備号の下書きは <http://jpme.jp> に掲載している。

構想の詳細は、新たに別投稿する予定であるが、JPME 構想により、下記が可能と思われる。

* 従来の教材と比べて刷新的な教材を製作した(と思いこんでいる) 製作者は JPME に投稿することにより刷新さが審査され、accept されれば、刷新さ、オリジナリティーを公的に主張でき、journal における掲載であるため、自らの(狭い意味も含めて)「業績」とできる。

* 学習者に対して、peer-review されているため、情報として正確であり、刷新的でわかりやすい教材が提供できる。

* JPME に掲載された教材に有用性を認めた教員は、元の JPME 教材の製作者と相談することなく、JPME 出典を引用し、一報することにより、非営利的教育に用いられるし、改変して新教材を非営利目的のために製作できる。

最後に

本稿は提案であって、アナウンスメントではない。ゴールは医学・生理学教育の情報シェアリングであり、journal の発刊ではないことは当然である。本稿が議論の叩き台となるならば、原型をとどめないほど叩かれても、提案者としては本望である。

JPME は、『情報シェアリングにより、教育の効率をさらに上昇させ、医学・生理学を学び、教える楽しさを増大させることをミッションとする』と謳っている。

文 献

1. 渋谷まさと, 小泉 周: 生理学会による生理学教育に関する情報シェアリングの促進 日本生理学雑誌 (OPINION) 2001; 63 (3): 63-64
2. 小泉 周, 小森 学, 渋谷まさと: 情報シェアリングとは Information sharing of physiology education: conceptual framework of the 'online Journal of Physiology Education' Jpn J Physiol, Vol 51 Suppl 2001 S100 第78回日本生理学会大会教育シンポジウム「生理学教育における情報シェアリング」(京都, 2001. 3)